

令和3年度教職員による自己評価 集計結果

令和4年2月7日

※ 評価基準

4 = よくあてはまる。大変努力している。 3 = ややあてはまる。努力している。
2 = あまりあてはまらない。あまり努力していない。 1 = 全くあてはまらない。努力不足である。

令和3年度教職員による自己評価項目

番号	項目	評価基準(人)					今年平均	昨年平均	評価基準(%)								4-3の%変化				
		4				3				2				1				昨年度	今年度		
		今年	昨年	今年	昨年	今年			昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年				
1	校訓である「自律・敬愛・剛健」を基本理念として「文武両道」を目指し、生徒に対し「知・徳・体」の調和のとれた人間形成を行っている。	10	36	5	0	3.1	3.1	20	17	71	78	10	5	0	0	95	-	91			
2	人権教育を基本として、全ての教育活動の報告・連絡・相談を確実にし、教育活動の改善に努めている。	16	33	2	0	3.3	3.3	31	36	65	63	4	2	0	0	99	-	96			
3	生徒に学習課題（予習・復習、宿題等）を適切に課している。	18	24	4	0	3.3	3.3	39	34	52	57	9	9	0	0	91	-	91			
4	授業の振替・補充を行うなど授業時数の確保に努め、授業は開始のチャイムで始まり終りのチャイムで終わらせるようにしている。	28	18	0	0	3.6	3.5	61	50	39	48	0	2	0	0	98	-	100			
5	学習時間確保のために具体的・効果的な指導助言を行っている。	23	20	3	0	3.4	3.3	50	29	43	64	7	7	0	0	93	-	93			
6	研究授業・相互授業参観等や生徒による授業評価アンケートを活用し、教科内で連携しながらアクティブラーニングの要素を組み込んだ授業実践を推進している。	8	28	10	0	3.0	2.9	17	16	61	50	22	33	0	2	66	↑	78			
7	基本的な生活習慣の確立や服装容儀、いじめの禁止等について、徹底した指導をしている。	24	25	1	0	3.5	3.4	48	37	50	63	2	0	0	0	100	-	98			
8	小さな変化を見逃さないよう、生徒の見守りや相談しやすい態勢づくりに努めている。	23	26	1	0	3.4	新設	46	46	52	52	2	0	0	0	0	0	98			
9	生徒が日常的にあいさつをすることができるよう指導している。	24	25	1	0	3.5	3.4	48	37	50	58	2	0	0	0	95	-	98			
10	清潔な学習環境の確保や生徒の人間力を高めるために、清掃活動を徹底している。	24	25	1	0	3.5	3.3	48	42	50	49	2	8	0	0	91	↗	98			
11	生徒の夢実現のために、生徒一人ひとりの進路目標を具体化させている。	13	32	3	1	3.2	3.2	27	22	65	72	6	5	2	0	94	-	92			
12	生徒の進路希望等をふまえて大学入試問題等を分析し、その成果を進路指導や教科指導に活かしている。	18	27	4	0	3.3	3.1	37	24	55	62	8	14	0	0	86	↗	92			
13	学部学科研究や入試制度などの理解を深めさせるとともに必要な学力について具体的な示唆を与えている。	17	28	4	0	3.3	3.2	35	26	57	67	8	7	0	0	93	-	92			
14	安心・安全な学習環境のための施設・設備の改善に積極的に関わっている。	17	35	1	0	3.3	3.3	32	31	66	65	2	5	0	0	96	-	98			
15	適切な会計処理を行っている。	37	15	2	0	3.6	3.6	69	60	28	40	4	0	0	0	100	-	97			
16	勤務時間を意識した業務管理を行っている。	12	29	10	2	3.0	新設	23	23	55	55	19	4	4	0	0	78	0	78		
17	川内高校生として望ましい基本的な生活習慣を身につけさせるように努めている。	11	6	0	0	3.6	3.3	65	27	35	73	0	0	0	0	100	-	100			
18	適性に応じた進路設計をさせ、進路実現のための基礎学力の充実に努めている。	8	7	1	0	3.4	3.1	50	18	44	77	6	5	0	0	95	-	94			
19	中堅学年の自覚と責任を持たせ、学校行事、部活動や清掃等に主体的に取り組ませるように努めている。	8	12	1	0	3.3	3.5	38	45	57	50	5	5	0	0	95	-	95			
20	進路研究をより一層推進し進路目標の具体化を図り、さらに、学習時間を増加させ、基礎学力と応用力の養成に努めている。	6	15	0	0	3.3	3.2	29	30	71	57	0	13	0	0	87	↑	100			
21	全ての教育活動に積極的に参加・活動させ、規則を遵守するなど、規律正しい心豊かな調和のとれた生徒の育成に努めている。	11	12	0	0	3.5	3.5	48	48	52	52	0	0	0	0	100	-	100			
22	進路実現のために適切な進路指導を実践し、目標達成のための学力を身につけさせるように努めている。	14	9	14	0	3.0	3.5	38	50	24	46	38	4	0	0	96	↓	62			

(単位は%)

10%以上の増加	↑
5%以上の増加	↗
5%未満の増減	—
5%以上の減少	↘
10%以上の減少	↓

【評価分析概略】

- 4・3の合計の割合が昨年度より5ポイント以上上がった共通項目は3項目ある。最も増加ポイントが大きかったのは項目6で、1年生のグレップ可愛山セミナー(職業研究)や、2年生の可愛山大学セミナー(学部学科研究)を実施した成果を感じ得ている表れである。
また、教員のフレッシュ研修及びパワーアップ研修等の充実も挙げられると考えられる。
- 4・3の合計の割合が昨年度より5ポイント以上下がった共通項目は皆無であり、昨年より全体的に改善した。
- 項目17以降は各学年に関するものである。2学年の進路の分野については13%の上昇が見られたが、3学年では大幅に減少した。コロナ禍のい通りの指導ができなかったという3学年部の職員の現状に満足せずに生徒をさらに高めたいという意識の表れだと考えられる。
なお、学年の項目については、すべての学年に回答しているものもあったが、学年が特定できないため集計に含めなかった。
- 項目8(今年度新設)友人関係やコロナ禍が原因で登校できなくなっている生徒が増加傾向にある。そういう生徒を少なくしたいという願い意識の表れだと考えられる。
- 項目16(今年度新設)更なる業務改善を進めていく必要があると思われる。